

石 桜 新 聞

第1面
この瞬間に輝け激闘高総体

第2・3面
自然科学部特集
ロケットで繋ぐ友情、若高世界に進出!!

第4面
体育祭
生徒会ネタ

平成23年7月16日発行
第123号
発行 岩手中・高等学校
出版委員会
印刷 (有)博光出版

この瞬間に輝け 激闘高総体



高総体二連覇のテニス部

5月26日から6月5日の約2週間にわたって県内の各地で第63回岩手県高校総合体育大会が開催された。我が校からも多数の運動部が出場し、テニス部が団体戦、個人戦で優勝した。バスケットボール部・ソフトテニス部・柔道部が団体でベスト8。惜しくも敗れてしまった部もあるが全力を出し切ることが出来たと思う。詳しい結果は以下の通りである。

試合結果

バスケットボール部	水沢市総合体育館
二回戦	対水沢工業 107-65
三回戦	対盛岡一高 72-59
四回戦	対久慈東 96-86
準々決勝	対盛岡南 44-101
結果	ベスト8
ラグビー部	八幡平市上寄木グラウンド(Bブロック)
一回戦	対水沢工業 0-58
敗者戦	対盛岡北 17-19
ハンドボール部	花巻市総合体育館
一回戦	対花巻農業 28-36

陸上部	北上市総合運動公園陸上競技場
4x100M R	予選敗退
サッカー部	
岩手フットボールセンタ	
二回戦	対水沢工業 3-2
三回戦	対盛岡北 0-3
結果	二年連続ベスト16

柔道部	二戸市総合スポーツセンター
予選リーグ	
一回戦	対一関二高 3-1
二回戦	対久慈工業 3-1
決勝トーナメント	
一回戦	対宮古工業 5-0
二回戦	対盛大付属 0-5
結果	ベスト8

卓球部	盛岡市県営体育館
一回戦	対黒沢尻工業 0-3

ソフトテニス部	北上市和賀川グリーンパークテニスコート
東北大会出場	
三A	中沢 大輝
二A	佐々木敏輝
団体	
ベスト8	
一回戦	対紫波総合 0-2

【個人戦】	
60キロ級	三年 阿部 初戦敗退
一年 羽田 初戦敗退	
66キロ級	三年 菅原 初戦敗退
73キロ級	三年 遠藤 ベスト8
三年 藤原 ベスト8	
81キロ級	三年 奥田 二回戦敗退
90キロ級	三年 中川 二回戦敗退
三年 村上 初戦敗退	
二年 系坂 初戦敗退	
三年 吉田 初戦敗退	

剣道部	県営武道館
団体戦予選リーグ	
対水沢	1-4
予選リーグ敗退	
個人戦	
佐々木 佐藤(黒工) 勝	

水泳	8月17日、20日 盛岡市民プール
ウエイトリフティング	8月2日、6日 江刺中央体育館
弓道	8月4日、7日 岩手県営武道館
ホッケー	8月2日、7日 岩手町ホッケー場

ハンドボール	7月29日、8月3日 花巻市総合体育館
ボート	8月5日、9日 花巻市瀬湖ボート場
体操	8月6日、9日 一関市総合体育館

剣道部	及川(宮古) 負
団体戦	優勝
個人戦(ダブルス)	優勝
個人戦(シングルス)	優勝
準優勝	伊藤 大輝
3位	吉田 皓
3位	川村 卓也
3位	太田代希唯
優勝	伊藤大輝・吉田皓 組
準優勝	三平奨・伊藤大星 組
3位	中村公亮・畠山彬 組
水泳部	盛岡市立総合プール
男子100m背泳ぎ	予選敗退

2011北東北インターハイ

7月27日から8月10日にかけて、青森県、岩手県、宮城県の三県で北東北インターハイが開催される。我が校からはテニス部が出場する。テニス競技は青森県の新青森県総合運動公園テニスコートで開催される(8月9日、16日)。ここでの活躍も期待したい。

また岩手県内でも数カ所大会が開催される場所があります。普段見ることのできない全国の高校生の試合。技術だけでなく、精神面、マナーなど学べることはたくさんあるはず。この機会に見てみてはどうですか？

石 割 桜

—岩高生一人一人が、夢を、希望を叶えるために—

テニス部の皆さん、優勝おめでとう！北東北インターハイでもがんばってください。

今回の震災で生徒の皆さんは何を感じましたか。日本は敗戦後、とても豊かで自由な国になりました。きつと敗戦当時の人々の心の中に自分たちが味わった束縛や貧しさや未来の子供たちには絶対に経験させたくないという強い思いがあったのでしよう。その思いが多くの血のじむような

努力と自己犠牲によって実現したのです。そのおかげで、今、君たちには、「選択の自由」となっています。そのために、日々の努力、高い志向性

生きている勇気を身に付けるのです。現代社会においては、志向と行動の的確な判断と選択をした時点で、その結果も予測できる事を

することがありません。要するに初期の選択が重要です。人生は選択の連続です。努力によって、人生の選択力、判断力が身に付く。努力は、結果に反映される。努力は、選択肢の幅を広げる。努力、そして選択、成果、それは、夢の実現への太いルートである。その太い道が、心に描けるかどうかで、自分の人生と向き合う真摯な人生観が決定するのです。

感性豊かな岩高生、「現」という一日一時を大切に、「選択」という判断を含め、一つ一つを「丁寧」に生きて欲しいと、願うばかりです。

誇りに思う岩高生に向けて、切なるメッセージ

岩手中・高等学校長 村井伸吾

ためには、今現在の努力が不可欠であり、人生の夢につながる未来を、自らの強い意志で拓いてもらいたいと思います。人生において、明るさ、楽しさ、元気、憧れ、愛、充実、感動、生き甲斐、

向上心、明確な目標から目をそらさないこと。す。たとえ、その結果目標が叶わなくても、挑戦する気概が、充実した一生の人生を約束します。そして、大きな夢、高い目標を、掲げた者のみが、

知ること必要です。正しい判断による、自己練習、的確な思考力、予見力を身に付けなければなりません。身につければ、正しい判断力、正しい選択力が増し、道を踏み外す

募金活動結果報告

3月23日(終業式)に行われた募金活動で集まりました義援金のご報告を申し上げます。

募金総額 ¥42,383
内訳と送付先
・東北地方太平洋沖地震 募金額 ¥40,000
送付先 日本赤十字社岩手支部
・ニュージーランド地震 募金額 ¥2,383
送付先 日本赤十字社本部

ご協力、ありがとうございました。

岩手中・高生徒会執行部

先頃、県民会館で開催された「小惑星探査機はやぶさ展」では本校の自然科学部が展示模型の制作にあたった。開催地近隣の学校が協力しているらしいが、県内では、日本代表として渡米した本校をおいて他にはないだろう。

「はやぶさ」は2005年5月9日に打ち上げられた、「ひてん」・「はるか」に続く、三番目の小惑星探査機である。約60億kmの長旅を終え、2005年6月13日に地球に帰還した。7年間も宇宙を巡り、幾多の困難に見舞われた「はやぶさ」を支えたのは人々の熱意と科学技術だ。その科学技術はアポロ11号が月に行った時代をはるかに凌いでいよう。科学技術の進歩は宇宙開発ばかりではない。人類の叡智をもってして、この世の中に不可能なことはあるのだろうか。

それは3月11日の東日本大震災で明らかになった。地震の直前、携帯電話の警報に驚いた人も多かっただろうが、地震予測はできて、津波から人々を守り切ることはできなかった。押し寄せる津波に私達は為す術もなく、ただ立ち尽くすのみであった。

今、日本中が岩手・東北を支援してくれている。岩手にいながら幸いにも大きな被害を免れた私達にはいったい何が出来るだろうか。特別に大きなことだけでなく構わない。まずは自分の生活を見直すところから始め、できることから手をさし、できることから。震災からの復興は始まったばかりだ。継続的な復興支援をしていかなければならない。

Keep Support!! IWATE (工藤 優也)

ロケットで繋ぐ友情、岩高世界に進出!!

2011年5月14日 土曜日
大会スケジュール

- 午前 8 時15分 - 午前 8 時30分
開会式
- 午前 8 時30分 - 午後 1 時30分
第 1 のRound Team Launches (100のチーム)
- 午前11時00分 - 午後 2 時00分
昼食
- 午前 1 時30分 - 午後 3 時30分
チーム・プレゼンテーション競争
- 午前 2 時30分 - 午後 4 時30分
アイスクリームの集い
- 午前 3 時00分 - 午後 4 時00分
第 2 のRound Team Launches (トップ20のチーム)
- 午前 3 時00分 - 午後 5 時00分
VIP受付
- 午前 4 時10分 - 午後 4 時30分
ロケット・デモンストレーション
- 午前 5 時00分 - 午後 6 時00分
授賞式
- 午前 6 時00分 - 午後 8 時00分
夕食 (BBQ)



優勝チームのメンバーと記念撮影 (ワシントンDCグレート・メドウにて)

5月14日にアメリカのワシントンDCのTeam America Rocketry Collegel (以下TARC) が開催され、この大会に我が校から自然科学部の山本一二郎(三A)、佐藤亮(三A)、星野佳太(三F)、吉田智敦(三F)、原田信雄先生が日本代表の「IWATEチーム」として参加した。総合結果 84位という成績をおさめた。

アメリカのワシントンDCで「Team America Rocketry Collegel」(以下TARC)が開催された。この大会に我が校から自然科学部の山本一二郎(三A)、佐藤亮(三A)、星野佳太(三F)、吉田智敦(三F)、原田信雄先生が日本代表の「IWATEチーム」として参加した。この大会に参加するために選手団は5月11日から16日までアメリカに渡り、14日の大会に臨んだ。

TARCとは、Team America Rocketry Collegelの頭文字をとった略称である。アメリカの中・高生を主に100あまりのチームがワシントンDCに集まり、日本は招待チームとして参加した。それぞれのチームは自分たちの作ったロケットを飛ばし、その結果を競い合う競技会であるが、競技会といってもただロケットを飛ばしてハイスコアを取るだけではない。大会には色々なプログラムも組み込まれており、国境を越えた交流も大会の目的となっている。

大会前夜祭ではアメリカのチームの数に圧倒された。たくさんのチームの人に囲まれ、多少の緊張はあったものの、アメリカの学生はとてもしっかり、相手から積極的に話しかけてくれてとても楽しく交流し、楽しい時間を過ごすことができた。中でも星野は自ら率先してテキサス州の代表に声をかけていたそうだった。大会当日、天候は曇りながらも雨が降ってきそうにながらIWATEチームはロケットを打ち上げた。ロケットを打ち上げた順番は決まっておらず、決められたブロックの中で準備ができた次の打ち上げとなった。打ち上げはだいたい50番目くらいだったという。打ち上げたロケットは白煙をのこして高く上がり、上空約200メートルの地点でパラシュートを広げ、ゆっくりと地上に戻ってきた。



デモンストレーション ロケットの打ち上げ

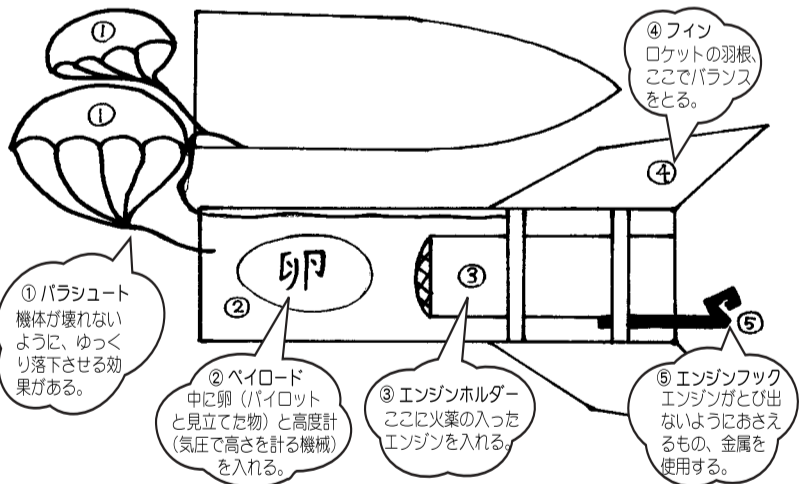
この大会からチームリーダーの山本は「この結果に満足しては、少しロケットが飛びすぎた。反省点があった。デモのロケットは成功して見えていて気持ちよかったです。また、大会が終了したあとに雨が降ってきたので、大会の最中に雨が降らなくて本当によかったです。」と語っていた。

その後はロケットやデモも飛ばされ、日本に帰ったら自分たちもあんなロケットをもっと作りたいなどと部員たちは新たな目標を持った。

選手たちは他のチームの人と自分たちのユニフォーム交換をして記念の写真撮影をした。写真撮影のときの顔はみんなとてもよい笑顔で、同じ志を持った者同士がお互いの健闘を称え合った。国境を越えた交流とはまさにこのことだろう。特に山本は優勝チームの人とユニフォーム交換ができて本当にうれしく、最高の思い出になったと話した。

「全米大会出場」この言葉は「日本代表」を意味する。今回、日本代表で全米大会に出場し、同年代の全米代表チームの選手と交流することができ、「ロケット技術の高さ」など沢山のことを学ぶことができた。ロケット技術に関しては、私たちがまだ試したことのない方法での打ち上げや、「パイロード」(卵の回収容器)の回収方法など全米代表チームの技術の高さは私

るけつと・たあへる・あなとみあ



宇宙飛行士に見立てた卵を搭載したロケットを打ち上げ、到達高度と滞空時間を競い、減点の少ないチームから順位をつける。

減点の基準

減点 = +

基準高度(750フィート)と、到達高度の差(1フィートにつき1点)

基準となる滞空時間(45~50秒)と実際の滞空時間の差(1秒につき1点)

*ただし、宇宙飛行士に見立てた卵が割れてしまった場合、失格となってしまう。

後輩に一言: 自分に自信を持つことが大切だ。今回の全米大会を無事に終え、帰ってこられたことにあたって、今まで支えてくれた方々へ、本当に貴重な体験が出来ました。この経験・体験をこれからの活動に活かしてさらに技術を磨いていきます。本当にありがとうございます。

くロケットに最大限活かして、今回の全米大会上位チームを超えられるようなロケットを作りたいと思います。全米大会という大きなイベントが終わって、今は次の目標に向かって進んでいます。全米大会で学んだ技術を活かして自然科学部の後輩達をサポートし、今年も「ロケット甲子園」で優勝することが今の自分の目標です。そして、この「ロケット甲子園」という大会は、チーム戦なので、「チームをまとめることの大変さ」「チームの大切さ」などを今の後輩達に大会を通して学んでほしいと思います。

「全米大会出場」この言葉は「日本代表」を意味する。今回、日本代表で全米大会に出場し、同年代の全米代表チームの選手と交流することができ、「ロケット技術の高さ」など沢山のことを学ぶことができた。ロケット技術に関しては、私たちがまだ試したことのない方法での打ち上げや、「パイロード」(卵の回収容器)の回収方法など全米代表チームの技術の高さは私

大会報告

全米大会そしてこれから

3年A組 山本 一二郎

の予想を超えていました。しかし、今回の大会で世界トップクラスのレベルを目の前で見ることができ、今回学んだ技術・経験を、これから作っていく



アメリカでの思い出

食文化の違い

三A 佐藤 亮

今回のアメリカ遠征にて、僕は驚きの日々でした。特に僕が驚かされた事が、アメリカの食文化でした。アメリカの食事の特徴はなんと言っても料理のボリュームが日本のものに比べてとても多い事です。アメリカに着いて二日目の夜、大会の前夜祭を終えて、夕食に肉料理を注文しました。その時に出てきた料理の量がとても多く、全部食べることができませんでした。また、五日目にニューヨークで食べたハンバーガーが日本

本のに比べて、甘みが強く濃厚で、日本では味わえないおいしさでした。また、四日目のワシントンDC観光中によつたらレストランで飲んだオレングジュースは甘さが控えめで果肉入りのやや強めの酸味がとてもおいしく、一番思い出に残る味でした。もし、また外国に行く機会があったらオレングジュースを飲みたいと思います。

我々四人はロケットの大会のために飛行機に乗りました。飛行機に乗るには初めてなので事故にあわないかちょっと不安でした。アメリカにきてみるとまず入国審査を受けるのですが英語が苦手な人も一応通訳の方がいるみたいなので安心しました。そうしてようやく空港の外に出てみると日本の外に出てみると日本との違いが結構ありました。まずアメリカの歩道には日本にある白い横線がありません。車は高速で八十kmくらいで走っていたり(電車の中外をみると車が電車を普通に追い越していた)、歩くたびにに店が五百mくらいの感覚であったり、カウントダウンする信号があつたりと結構な違いがありました。

真面目な文章はキャブテンが担当するというところなので、今回はいつもの大会には触れないでみようと思つて、全体を通しての印象として、行き当たりばつたりでハブニング満載だったなあ。

初日は深夜バスでいびきがうるさいおじさんがいて全く一睡もできなかったこと、二日目は飛行機のチケットをもらうときにバスポートを無くしてカバンの中身をひっくり返して探していたのがとても記憶に残っています(バスポート入れたウェストポーチが前後逆になつていただけ)。飛行機の中では基本的にいかにして尿意に対抗するかで忙しかつたです。運悪く窓側は隣は知らない人というシチュエーションの中トイレに行くのは至難の業でした。飛行機内では映画などをみたりできるのですが流石に十三時間は飽きます。アメリカ上空に入った時は景色をみようとしたんですが、下は湿地でなんの面白みもありませんでした。そんなこんなで出発後一睡もせずアメリカ到着しました。最初の難関は入国審査なのですが、思つていたよりも何となく簡単に分る物事をすべかられたら通訳呼ばれたりした人もいましたが済みませんでした。そしてようやく外へ出ました。周りには外人さんはいませんが、看板などは日本語が書かれていまして、自販機がなんかゴツイです。そしてなにより日本語が周りから聞こえ

ません。しかしそんな中バスの中で普通に外人さんと会話をしている人が、ホテルのロビーで朝食を食べられると教えていただいたので、先生達に会いに行くのを放棄し小川さん達とロビーで朝食をとりました(ちゃんとあつて合流しました)。朝食はバイキングだったので、ベーコンがすごくおいしい！そりゃあもうカリッカリなんです。何かも食べちゃいました。

次に「後は明日だヨーグルト」後は明日だヨーグルト、もうキャブテンノリノリです。

一九六九年七月二十日は、ニール・アームストロング船長がアポロ11号による月面着陸を果たした日である。テレビでの中継を固唾を飲んで見ていたのが十代後半の時であった。その月面に降りた第一歩を有名な言葉で残している。『私にとっては小さな一歩だが、人類にとっては大きな飛躍の一歩である。』まさしく米国が宇宙開発における頂点に立った瞬間でもあった。それ以来、合計十二名の宇宙飛行士が月面活動をしている。今回の大会はそのアメリカでの最大のロケット競技会である。その会場に岩手高校の選手が同じく1ルで現地高校生とロケット技術を競い合ったのである。渡米に関してはハード

ルが幾つかあった。まず東日本大震災の影響であつた。早めの渡航準備をしたのは良かったが、津波により仙台空港が使用不可能になった。仙台空港から成田国際空港へとして、会場ワシントンへとすてに空路の予約を取得済みであった。その

盛岡から夜行バスでの出発になった。高速道は地震の影響で段差が多く乗ってみたいが強いので、乗るがバスのサスペンションが壊れるくらい「ガタン、ガタン」と一晩中続いた。当然選手も私も睡眠は、ほとんど摂れなかつた。それを、三機もトランクに詰め込もうというのである。端から見れば「無謀」と言われても仕方がない。入国審査官とのトラブルを想定し、現地大会役員の説明が可能になるよう、携帯電話の番号のメモを持つ

真を撮って、ハイ終わり。あまりにも簡単過ぎて、犬の前を通過する時には後から尻をガブリとされそうに思っている。選手も全員入国できた時は「なんと寛容な国だ」と正直思った。この二つのハードルをクリアできた時はもう完全に大会では全力を出し切れると確信できた。

五月十四日大会当日は天気予報通り、今にも雨が降りそうな状況の中で淡々と行われた。開会セレモニーはアメリカ軍旗の行進、いわゆる「アーミーカラー」の厳肅な式典から行われた。プロの歌手による「アメリカン・グレイス(鎮魂歌)」の独唱が始まった時は霧がかすかにかかると、すばらしい歌声が広大な牧草地の隅々に響き渡った。このような場所にいるこ

た。二つ目の大きなハードルは、五月に入つてウサマヒン・ラディン氏が殺害されたことによる「テロ警戒体制」が強化されたことである。アメリカに入国がすんなり通るとは誰にも思えなかつた。紙とパルサで造られたロケットでも、指紋を採って、写

た。二つ目の大きなハードルは、五月に入つてウサマヒン・ラディン氏が殺害されたことによる「テロ警戒体制」が強化されたことである。アメリカに入国がすんなり通るとは誰にも思えなかつた。紙とパルサで造られたロケットでも、指紋を採って、写

とが夢のようで非常に印象深く残っている。我がI W A T E E チームのロケットは打ち上げ前の検査、卵、高度計と練習通りこなし、発射台へのセットに向かった。た

前夜祭、閉会式のどちらでもスタンディング・オベーションをいただいた。現地役員のさまざまなサポートを受け、恵まれた環境の中で競技に専念できたのも幸せであつた。

こんな感じでアメリカを理解した後のホテルまでの道は大変でした、スピードをだしてピコン走る周りの車、それに合わせる原田先生、間に合わないカーナビ、過ぎ去る本来の道、飛び交う「スピード下げて」の声、きつと周りの車から見たら変な車だつたに違いないと、ちなみ

た。二つ目の大きなハードルは、五月に入つてウサマヒン・ラディン氏が殺害されたことによる「テロ警戒体制」が強化されたことである。アメリカに入国がすんなり通るとは誰にも思えなかつた。紙とパルサで造られたロケットでも、指紋を採って、写

た。二つ目の大きなハードルは、五月に入つてウサマヒン・ラディン氏が殺害されたことによる「テロ警戒体制」が強化されたことである。アメリカに入国がすんなり通るとは誰にも思えなかつた。紙とパルサで造られたロケットでも、指紋を採って、写

た。二つ目の大きなハードルは、五月に入つてウサマヒン・ラディン氏が殺害されたことによる「テロ警戒体制」が強化されたことである。アメリカに入国がすんなり通るとは誰にも思えなかつた。紙とパルサで造られたロケットでも、指紋を採って、写

た。二つ目の大きなハードルは、五月に入つてウサマヒン・ラディン氏が殺害されたことによる「テロ警戒体制」が強化されたことである。アメリカに入国がすんなり通るとは誰にも思えなかつた。紙とパルサで造られたロケットでも、指紋を採って、写

た。二つ目の大きなハードルは、五月に入つてウサマヒン・ラディン氏が殺害されたことによる「テロ警戒体制」が強化されたことである。アメリカに入国がすんなり通るとは誰にも思えなかつた。紙とパルサで造られたロケットでも、指紋を採って、写

アメリカに行ったときのお話

三F 吉田 智 敦

旅行記

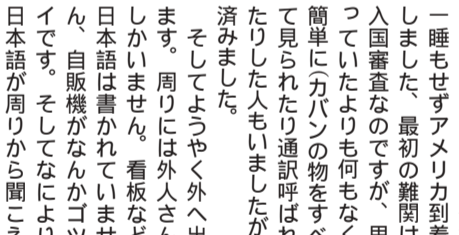
三F 星野 佳 太



本のに比べて、甘みが強く濃厚で、日本では味わえないおいしさでした。また、四日目のワシントンDC観光中によつたらレストランで飲んだオレングジュースは甘さが控えめで果肉入りのやや強めの酸味がとてもおいしく、一番思い出に残る味でした。



真面目な文章はキャブテンが担当するというところなので、今回はいつもの大会には触れないでみようと思つて、全体を通しての印象として、行き当たりばつたりでハブニング満載だったなあ。



初日は深夜バスでいびきがうるさいおじさんがいて全く一睡もできなかったこと、二日目は飛行機のチケットをもらうときにバスポートを無くしてカバンの中身をひっくり返して探していたのがとても記憶に残っています。



夕方には他の中高生が沢山いる所に出掛けました。皆背がとても高かったです。適当にメンパーの後に付いて行くや突然、インイングリッシュで私を呼び止める声。アメリカで会った市嶋さんに一緒に写真を撮ってほしい。だそう

世界へ挑戦

自然科学部顧問 原田 信 雄

最初に聞いたわけである。飛行機の手ケットは搭乗してもしなくても定期的に飛び立つ。頼みの新幹線も四月末まで不通であった。大きな余震があれはダイヤも乱れ、飛行機に間に合わない可能性が強く、国内移動が最大の難関であることは思いもよらなかつた。結局、

た。二つ目の大きなハードルは、五月に入つてウサマヒン・ラディン氏が殺害されたことによる「テロ警戒体制」が強化されたことである。アメリカに入国がすんなり通るとは誰にも思えなかつた。紙とパルサで造られたロケットでも、指紋を採って、写

た。二つ目の大きなハードルは、五月に入つてウサマヒン・ラディン氏が殺害されたことによる「テロ警戒体制」が強化されたことである。アメリカに入国がすんなり通るとは誰にも思えなかつた。紙とパルサで造られたロケットでも、指紋を採って、写

とが夢のようで非常に印象深く残っている。我がI W A T E E チームのロケットは打ち上げ前の検査、卵、高度計と練習通りこなし、発射台へのセットに向かった。た

前夜祭、閉会式のどちらでもスタンディング・オベーションをいただいた。現地役員のさまざまなサポートを受け、恵まれた環境の中で競技に専念できたのも幸せであつた。

こんな感じでアメリカを理解した後のホテルまでの道は大変でした、スピードをだしてピコン走る周りの車、それに合わせる原田先生、間に合わないカーナビ、過ぎ去る本来の道、飛び交う「スピード下げて」

た。二つ目の大きなハードルは、五月に入つてウサマヒン・ラディン氏が殺害されたことによる「テロ警戒体制」が強化されたことである。アメリカに入国がすんなり通るとは誰にも思えなかつた。紙とパルサで造られたロケットでも、指紋を採って、写

た。二つ目の大きなハードルは、五月に入つてウサマヒン・ラディン氏が殺害されたことによる「テロ警戒体制」が強化されたことである。アメリカに入国がすんなり通るとは誰にも思えなかつた。紙とパルサで造られたロケットでも、指紋を採って、写

た。二つ目の大きなハードルは、五月に入つてウサマヒン・ラディン氏が殺害されたことによる「テロ警戒体制」が強化されたことである。アメリカに入国がすんなり通るとは誰にも思えなかつた。紙とパルサで造られたロケットでも、指紋を採って、写



体 育 祭



去る五月十一日と十二日に校内体育大会が行われた。当初の予定では十日に行われるはずであったが、順延となり日程が変更された。今年度は前期と後期に一度ずつ行う予定となっていて、前期は学年別クラス対抗で行われた。今回の学年対抗で一年生はE・F組の合同チーム、二年生はC組、三年生はC組が総合優勝を果たした。

五月十一(水)・十二日(木)に春季体育大会が行われた。集中豪雨が予想されるため、当初の予定では、一日順延しての開催となった。今年度は、以前行われていた体育大会のように二度行われる。今回の春季体育大会は学年別対抗戦となり、各学年壮絶な試合を繰り広げた。接戦の末、一年生はE・F組の合同チーム、二年生はC組、三年生はC組が総合優勝を果たした。しかし、どのクラスも追い抜き追い抜かれと決して諦める事なく、最後まで自分のクラスのために競技に取り組み個人個人がいたからこそ、このような結果を残すことができたのだと思う。また、普段は体育の授業を楽しめない生徒でも積極的に競技に参加して、体を動かすことによって得られる楽しさを知った者もいることだろう。今回、惜しくも負けてしまい、栄光を逃したクラスも多々いることだろう。体育大会は秋にも行われる(予定)。そのときまでに各々が精進し、次こそは自分たちが優勝するとう意思を持って行動することがこれからの学校生活でも生きてくるのではないだろうか。



卓 球

普段体育の授業でもすることが少なく、ふわふわとしたピンポン球が行き交う試合が多かった。バレー、バスケットとは違い派手さはないがチーム全員が落ち着いた試合運びをみせた

試合結果(優勝)
高一 E・F組
高二 B組
高三 E組
中学 三甲A



柔 道

普段生徒たちがまじめに授業を受けているように、とても激しい試合となった。各々が工夫をこらして相手のバランスをくずし、素早く技などをかけて勝負を決めていた。この激しい戦いを見事に勝ち抜いて三年生はC組が優勝した。

試合結果(優勝)
高一 A組
高二 D・F組
高三 C組



サ ッ カ ー

試合は普段の授業とは違つことが多かったが、選手たちは戸惑つことなく全力でプレーしていた。他の競技に比べて人数が多く、それぞれが自分の役割を認識していることが大切であり、二年生の部ではA組が優勝した。

試合結果(優勝)
高一 E・F組
高二 A組
高三 C組



バレーボール

普段から授業で試合をしていることもあり、どのチームもサーブ、ブロックに磨きをかけて試合に臨んだ。教員チームも参加し、生徒に負けまいとがんばる先生方の普段の授業では見ることができない姿を見ることができた。

試合結果(優勝)
高一 B組
高二 C組
高三 C組



バスケットボール

もつともこの体育祭で盛りあがった競技の一つである。どのクラスもメンバー選抜から時間をかけ、昼休みも練習するなど、どのクラスもこの競技にかけていた。最後に三年生の部で優勝したB組とバスケット部のエキシビジョンマッチは全校生徒に感動を与えた。

試合結果(優勝)
高一 A組
高二 A組
高三 B組



ソフトボール

この競技は中学生のみ行われた。青空の下、お互い声を掛け合い攻撃と守備、どちらも一秒たりとも気の抜くことのできない白熱した試合だった。

試合結果
一位 三甲A
二位 三甲B
三位 二甲

生徒会 総 会

副会長 千葉 潔孝(二F)
皆さんこんにちは、僕が生徒会に入つて何をしたいかを話して行きたいと思ひます。僕には一つの願望があります。それは売店にジャブを置くことです。まあ会長があれのお方ですから無理でしょうけど。大体そんなことしたらウチの学校の四天王に怒られかねないのですね。デークらいにします。冗談です。おふざけはこれくらいにしましょう。実際僕にはまだ学校をどうしたいのかまだわかりません。しかし、ぼくは副会長、会長のサポートをしたいかなければなりません。なので僕は会長が提案したものに對して、いいと思ったものは全力でサポートし、だめだと思つたら思いっきりぶんどつていって、結果的に皆さんが卒業するとき、この学校でよかったというように学校をつくっていきたいと思ひます。

生徒会長 澤井 瑠架(二F)
僕は学校の代表としてもつとしっかりしていきたい。今回の生徒総会で緊張してしまい質問に答えることができなかった。質問には副会長と書記が代りに答え、何とか無事に済んだ。皆に迷惑をかけてしまったが、それ以外に大きなミスもなかった。皆、初めての仕事の割にはよくがんばつたと思う。そして、これからの生徒会では、学生の悩みや疑問を解決していく新入生には文化祭などを通して学校をよく知ってもらい、よりよい学校にしていきたい。

副会長 星野 佳太(二F)
前年度の後期から引き継ぎ生徒会副会長を務めていたが、私のこれまでの目標はできるだけ悪くない意味で目立つということ、今までの生徒会がしてこなかったような事をやって、先生方の記憶に残れば良いと思ひます。生徒はこころ変わるのだから、記憶に残らなくてもいいです。具体的には何やっただよと言われますと、だいぶ前に廃れてやっつた校内放送を復活させて放送委員の仕事を作つてみたり、本来すべき仕事をしない委員会にお仕事を割り当ててくださる。なに仕事増やしてんだよこのすつとこと

書記 佐藤 徳之進(三F)
「生徒総会の内容を踏まえてのこれからの生徒会について」というテーマでの執筆依頼でしたので、総会に対する見解を述べさせていたいただきます。よかった点はやはり、中学生から多数の質疑が出されたことでしょうか。反省すべき点は野次の数々です。せつかく一年間の計画を曇りなきものにしようとしているのに、どうしてそれが非難されなければならぬのでしょうか。長い間座りっぱなしで早く教室に戻りたいと思つておられた方々も多かったことでしょうか。ですが、会の時間が延びたのは質問をした彼らのせいではなく、生徒会の不手際です。このことについてはお詫言ひ申し上げます。それにしても、高校生の中から質疑が一つも出なかったことは驚きでした。もう少し積極的な総会であった方がよかつたのではないかと思ひます。さて、「これからの生徒会」について。内政面の充実と厳正策の維持を目指していきたいと思つておりますので、皆さんのご意見をお寄せください!



編集後記
出版委員長の熱意によって、久々に再開されることとなった校内新聞だそう。締め切り間に合わなくなりましたが、たくさんの方々の協力と短縮授業の放課後の時間を費やしたおかげで、なんとか出版できました。これで、後は夏休みを待つばかりです。しかし、今年の夏休みはおそらく例年とは違つことでしょう。今年は東日本大震災の影響で色々な問題が起きています。その中の一つに電力不足の問題があります。そのため、いかに節電しながら快適に夏を過ごすかという話題をテレビでよく見ます。ですが、節電のために犯罪が増えているそうです。例えば、電化製品の使用を控えて、窓を開けていたら、空き巣に入られたとか、節電のために街灯が消されている所ではひったくりが多くなつたそうです。皆さんもそういうことに気をつけながら今年の夏を楽しく過ごして下さい。

編集委員
三D 工藤 優也
二F 平賀 太竣